

か・け・は・し
こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411



進行乳がんで
見つかる人を
ゼロにしたい

Vision



乳がんで命を
落とす人を
ゼロにしたい



がんと診断された人が
その人らしく生きることを
支えたい



院長交代のご挨拶

この度、にゅうわ会及川病院の院長に就任いたしました及川将弘です。平素より当院の医療と運営にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。当院は1969年に「及川外科」（有床診療所）として開設されました。初代院長・及川敏夫の掲げた理念は「患者様第一で、来院される患者様はいづいかなる場合でも必ず診る」であり、かぜや切り傷から手術まで対応する文字通り「町の外科医院」として地域医療に貢献してまいりました。私自身、中学生の頃に急性虫垂炎（盲腸）の手術を当院で受けたことがあり、この病院には患者としての思い出もあります。長年、地域に根ざした民間病院として救急医療にも尽力してきましたが、福岡市内に総合病院が増える中で、次第に従来の形態では地域のニーズに応えにくくなってきました。



2004年、先代院長・及川達司の下で病院の全面改築を行い、乳腺疾患専門病床21床と緩和ケア病床15床を備えた乳腺疾患・緩和ケアの専門病院へと生まれ変わりました。当時、乳がんの罹患率は女性の約30人に1人と言われていましたが、この20年で大幅に増加し現在では9人に1人が乳がんを発症するとされ、乳がんは今や日本人女性で最も患者数の多いがんとなっています。こうした乳がん診療ニーズの高まりを受け、当院は福岡で初めて女性患者さんの受診のしやすさとプライバシーに配慮した乳腺専門病院を目指しました。同時に、不足していた終末期医療に 대응するため緩和ケア病棟も新設いたしました。おかげさまで、これらの取り組みは地域の医療関係者や患者様から大きな支持をいただき、昨年の乳がん手術件数は280件を超えて福岡市内でも有数の実績となり、緩和ケア病棟も稼働率90%近くを維持しております。

このたび、第3代院長に就任するにあたり、当院の今後の目標（ビジョン）を3つ掲げました。それは次の三点です。

- ・ 進行乳がんが発見される人をなくしたい（乳がんの早期発見・啓発）
- ・ 乳がんによって命を落とす方をなくしたい（最善の治療の提供）
- ・ がんと診断された方がその人らしく生きられるよう支えたい（緩和ケアとサバイバー支援の充実）

現在、これらの目標の達成に向けて職員一同一丸となって日々研鑽に励んでおります。以下に、その具体的な取り組みの一端をご紹介します。

まず、進行した乳がんを生まない（早期発見する）ための取り組みとして、乳腺外来では女性が安心して受診できる環境を整えています。女性専用エリアの設置や女性スタッフ（医師・技師）による対応により受診時の不安を和らげ、検査はすべて女性技師が担当しています。診察室には超音波装置（エコー）を常設し、検診で異常が見つかった場合には即座に医師によるダブルチェックを行い、シームレスに診断まで進める体制です。また、AYA世代※への啓発週間（AYA Week）や母の日、ピンクリボン週間に合わせて多職種チームで乳がん検診の啓発活動も行っています。こうした工夫により、女性の患者様が早い段階で気軽に受診し検査を受けられるよう努めています。

次に、乳がんを命を落とす人をなくす（治療の質を向上する）ための取り組みです。乳腺外科の専門医チーム（女性医師を含む）が主治医制で診療を担当し、常に最新の医療技術を積極的に導入しています。例えば手術では、蛍光色素を用いたセンチネルリンパ節生検と術中迅速病理検査（手術中に転移の有無を調べる検査）を行い、がんの広がりを正確に把握した上で適切な切除を実施しています。乳房を全摘出せざるを得ない場合には形成外科と連携し、人工インプラントによる乳房の同時再建術を提供して身体的・精神的負担の軽減と生活の質の維持に努めています。治療方針の検討にあたっては、熟練した乳腺病理専門医による詳細な病理診断や最新の遺伝子検査（オンコタイプ DX など）も活用し、科学的根拠に基づいた最適な治療を追求しています。さらに、術後の補助療法が必要かどうかは、腫瘍内科医や看護師、薬剤師など多職種チームによるカンファレンスで全例検討し、一人ひとりの患者様に最適な治療プランを提供しています。

最後に、がんを診断された方の人生を支える（緩和ケア・サバイバー支援の充実）ための取り組みです。緩和ケア病棟は全室個室の落ち着いた環境とし、専門の緩和ケア医が常駐して患者様とご家族に寄り添ったケアを行っています。在宅療養へ移行される患者様に備えて在宅医療の先生方と密に連携し、容体が安定すれば再びご自宅で過ごせるよう支援しています。また、お花見や夏祭りなど季節ごとの行事を病棟内で開催し、入院中も四季折々の楽しみを感じていただけるよう工夫しています。さらに、当院独自のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）シートを作成し、治療の早期から患者様の意思決定を支援しています。

サバイバーシップ（がん経験者の長期支援）にも力を入れ、治療に伴う副作用や将来への不安に対処する取り組みを進めています。例えば、抗がん剤治療による脱毛を防ぐための頭皮冷却療法や、手足のしびれ（末梢神経障害）を軽減するための冷却グローブを導入しています。乳がん治療に際して将来の妊娠への影響が心配な患者様には、婦人科の専門医と連携し卵子・受精卵の凍結保存など妊孕性温存の支援も行っています。さらに、乳がんの家族歴があり遺伝的リスクを不安に感じる方に向けては、臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリングを実施し、必要に応じて遺伝学的検査も提供しています。これらの取り組みにより、患者様一人ひとりの生き方や将来の希望に寄り添った総合的なサポート体制を整えています。

一方、当院は80名以上の職員が働く「職場」でもあります。院長として、病院が職員にとっても人生の大半を過ごす大切な生活の場であることを常に念頭に置き、職員一人ひとりが乳腺診療や緩和ケアに貢献していることに誇りを持ち、やりがいと幸せを感じながら自己実現できる職場環境を築きたいと考えています。そのために、医療のデジタルトランスフォーメーション（DX）を活用して意思疎通を円滑に行い、意思決定の過程を透明化し、全職員の知恵を結集して健全な病院運営を続けていきたいと考えています。それこそが院長である私に課せられた責務であると肝に銘じております。

今後も、地域の皆さまに信頼され、そして患者様に安心して治療を任せいただける病院であり続けるために、全力を尽くす所存です。何卒、今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

脚注：AYA世代とは思春期・若年成人世代（Adolescent and Young Adult: おおむね15～39歳）を指します。

《PAXMAN》導入のお知らせ

当院では、令和7年11月から化学療法における脱毛抑制に効果を示す頭皮冷却療法《PAXMAN》を導入致しました。冷却キャップを用いて化学療法中に頭皮を冷却し、毛根への血流を減少させて脱毛を抑制する方法です。

1人1人の頭のサイズに合わせ、キャップを選択する事が可能です。

化学療法に伴う苦痛の中で脱毛は避けては通れませんが、PAXMANの使用により少しでも脱毛による苦痛が軽減できればと思っています。



ピンクリボン 活動報告



今年度のピンクリボン月間は「今の行動で未来が変わる 受けよう乳がん検診」をキャッチコピーとし、32名のメンバーが、日曜検診グループ・Instagram投稿グループ・乳がん検診啓発のためのアンケートグループに分かれて乳がん検診啓発活動を行いました。

今年度は日曜検診の前に見学会を開くという初めての試みを実施しました。この目的は乳がん検診に対しての不安や疑問を解決し、日曜検診の受診者を少しでも増やすためです。平日の夕方にも関わらず5名の方が参加して頂きました。当日の日曜検診には16名の方が受診されました。当日の様子や乳がん検診啓発のためのアンケート結果をInstagramに投稿しております。今年度はInstagram投稿に力を入れています。動画を中心に投稿しスタッフの写真もアニメタッチ（ジブリ風）にして、素敵な写真・動画ができあがっています。ぜひご覧になって下さい。

乳腺専門病院として今後も乳がん検診率向上を目指し活動を続けていきたいと思っております。

第23回 日本乳癌学会九州地方会

今回は「当院のACPへの取り組み」について発表しました。当院では、「診断時」「術後病理結果説明時」「再発進行時」「BSC時」の4つの時期に沿った、段階的なスクリーニングシートを用いて実施しています。今回は「診断時」「術後病理結果説明時」の周術期の患者それぞれ約50名ずつのスクリーニングシートを集計した結果を発表しました。周術期患者の8割は「つらさ」を感じていました。不安を抱きながらも根治に向けた治療を行いたいと9割の方は意思決定ができていましたが、1割はサポートが必要で、心療内科医1件、認定看護師4件、栄養士2件が患者様の希望で面談を行っています。また、ACP開始半年後に、関わった看護師23名にアンケートを実施した結果「ACPシートを渡すことの困難さ」「受け取った後の



聞き取りへの困難さ」など心理的バリアが生じていることもわかりました。一方で、患者への関わりが深まったと回答した看護師は65.2%に及び、スクリーニングシートが患者とのコミュニケーションツールとして活用出来ているのだと考えます。乳がんの患者様は、年齢が20代～90代までと幅広く、個々の社会的背景も価値観も多様であり変化もしていきます。そして、乳がんの治療は長期にわたるため、私たち医療者は、診断時から患者様の背景や価値観を段階的に具体的に確認しながら、人生の最終段階の意思決定までチームでサポートしていきたいと思っております。



AYA世代 (15歳~39歳) の皆さまへ

乳がんの早期発見・早期治療のためにできることを一緒に学びませんか

日時：令和8年2月8日(日) 10:00~11:30

場所：及川病院 福寿町中央区平尾2丁目21-16

TEL: 092-522-5411

参加費：無料

参加定員：20人

- 内容：・AYA世代のがんの特徴や乳がん、
プレストウェアキスについて
・がん検診書を送る際の
Q&Aセッション
・乳がん自己検診方法について
・及川病院外来見学



講師：及川病院 院長 及川祥弘医師
※平山 翠子
日本乳癌学会専門医 福寿町中央区
東2024~2026年版 国民のための乳癌ワークショップ

【お問い合わせ・お申し込み】

- ① 及川病院 Instagram の DM
- ② 電話 (TEL: 092-522-5411)
- ③ 来院受付にて直接お申込み
- ④ 下記QRコードより申し込み



【参加特典】

- ① 参加費全額に及川病院様のお得で使えるチケット (300円分税込) をプレゼント
- ② 3月の別号頃に AYA 世代の方を対象とした検診講座を設けますが、その時の検診 (エコー、触診) 料全額 ¥5,500 (税込) をイベント参加費 本人は ¥2,000 (税込) に、ご友人は ¥3,000 (税込) にさせていただきます
- ◆小さなお子様連れでも参加できます。職員が責任を持ってお子様をお預かりいたします。

みなさんの参加をお待ちしております



「AYA WEEK」は



“AYA 世代 (15 ~ 39 歳) とがん” について社会全体の理解を深め、がん患者をサポートするための仕組みを充実させることを目的としています。

及川病院では、2月8日(日)にイベントを開催します(※ポスター参照)。若い世代のがんについて共に学び、ご自身や周りの方の健康に関心を持っていただく機会になればと思います。

また、3月7日~14日に検診キャンペーンを実施します。上記イベントに参加してくださった方・お友達への割引や、期間中に自費検診を受けられた対象年齢の患者様に特典もご用意しています。

クリスマスイベント

緩和ケア病棟では季節に合わせた行事を行っています。

12月にはクリスマス会を行いました。先生がサンタクロースの恰好をして病室を回り患者様へプレゼントを配ります。

記念撮影も行い、写真もお渡しするので患者様やご家族にはとても喜んでいただけました。

1月は初釜、2月は節分を予定しています。



当院のインスタグラムのお知らせ

及川病院では、公式インスタグラムを通じて、病院の日常の様子や取り組みを発信しています。

院内の雰囲気やイベント、スタッフの活動などを、写真や動画でご紹介しています。

ぜひ、右のQRコードから及川病院公式インスタグラムをご覧ください。

よろしければフォローしていただくと、スタッフ一同の励みになります。



@OIKAWA_HP



ACP（アドバンス・ケア・プランニング）：自分らしく選ぶとは？

当院は乳腺診療と緩和ケアに専門化した乳腺病床 21 床、緩和ケア病床 15 床の単科専門病院であり、その方らしく過ごせられるようにお支えすることを当院ビジョンの一つとして掲げ、各職種スタッフがそれぞれの能力を発揮することを心がけています。『その方らしく』は、お一人お一人さまざまであり、ご自身が一番ご自分のことをよくご理解されているかと思えます。皆さまと当院スタッフが関わらせていただく際は乳腺の疾患や緩和ケアでの診療における出会いとなりますね。診断、治療法の決定、手術、お薬の治療、治療法の変更、積極的治療の中止など多くの時期でお気持ちが大きく揺れ動いたり、つらくて先が見えなくなったり、不安な気持ちで眠れなかったりされるかと思えます。当院では 2024 年 11 月より ACP チームの取り組みによってお気持ちのつらさの点数評価(0-10 点)、心配ごと、周囲のサポート、専門職（緩和ケア医、認定看護師、栄養管理士）の話を希望されるかどうかなどの具体的な質問を作成し、時期に応じて皆さまのお気持ちの具合、心配ごとをお聞かせいただきたく記入用紙をお渡しさせていただいています。当然、診断告知後でとても気持ちが追い付かない、受け入れられない、見たくない、考えたくない、記入する気分になれない、などあるかと思えます。お気持ちが

チーム医療のイメージ



落ち着かれた後でだいじょうぶです。これまでのご自身を優しく労り、そっにご自身の心の声はどのようなことを言いたいんだろう、思っているんだろう、どのようなことを希望しているんだろう、何を大切にしているんだろう、これから何を大切にしたいんだろうなどご自身の心の声に耳を澄ましてみられていただけますでしょうか。そしてその声に当院各職種も耳を傾け、皆さまが『その方らしく』、なるべく望む形を選択してお過ごしできますよう、多職種によるチーム医療で皆さまをサポートしてまいります。そのためにはどのようにご自分の人生を過ごしていきたいかをご自身が認識し、医療者との双方のコミュニケーション（理解、話し合い、質問）を通じて一緒に治療方法を決めてゆきましょう。この過程が ACP のプロセスであると個人的には考えています。



乳腺外科医 小林美恵

<学会・認定>
日本乳癌学会専門医・指導医
日本乳癌学会評議員
日本外科学会専門医
日本がんサポーターブケア学会



〒810-0014 福岡市中央区平尾 2-21-16
Tel:092-522-5411 Fax:092-522-6244



〒810-0044 福岡市中央区六本松 4-2-2
[六本松 421]2F クリニックゾーン
Tel:092-406-8172 Fax:092-406-8182



六本松乳腺クリニックの
ご予約はこちらから